

## 島根大学医学部使命の成立経緯について

医学科長 内尾祐司

島根大学医学部の使命を明示する上で、島根県のこれまでの医療の歴史と地域の特殊性を踏まえなければならない。ここでは、それを基盤とした島根医科大学開学の精神・理念や島根大学との統合による島根大学医学部の使命が成立した経緯について概説する。

### 日本医学・医療発祥の地・出雲

出雲は、神代から医学・医療に縁の深い土地である。古事記に云う、「大國主神(おおくにぬしのかみ)」が稲羽之素菟(いなばのしろうさぎ)を真水による洗滌と蒲(がま)の穂での保護で救う神語り(資料 1)や、日本書紀(資料 2)や出雲国風土記(資料 3)に云うように、少彦名命(すくなひこなのみこと)とともに病気の治療法を定めた故事などから、“大國主大神は医学の祖神”とされている(資料 4)。

また、八十神の謀によって大國主神が大火傷で焼死したのを、「蜃貝比売(きさかひひめ)」は、自分の身を削り、蛤貝比売(うむがひめ)がそれを受けとめたのを母(おも)の母乳(ちしる)のように、オオクニシの体にやさしく塗って蘇生させたことから、両神は医薬・看護の神様とされる(資料 1,3)。大國主大神と蜃貝比売および蛤貝比売の三神は、国宝・出雲大社の御祭神として、今なお多くの人々の信仰を集めている。

さらに、八百万の神々が来雲される神在月は出雲では宴会や大声は禁止とされ、「忌み月」として過ごさなければならない。これは崇神天皇時代から行われてきた手水・禊ぎとともに、疫病予防の知恵ともいえる風習である。このような歴史・風習を形成した出雲の風土を、文豪・小泉八雲(ラフガディオ・ハーン)は、“「神国」というのは、日本の尊称である。その「神国」のうちで、最も清浄な国は、出雲の国である。・・・国造は神代の時代から世々その家に受け継がれてきた、古い称号と呼ばれている。その神は、どれほど深い尊敬が国造に払われたか、このことは、出雲の郷民の中で暮らしたことのない人には、ほとんど想像もつかぬくらいである。”(資料 5)と表している。

### 島根県における近世・近代医学・医療の黎明期

「大黒さま(大國主大神)」の原始医学から草根木皮による民間医療の発達が起こり、近世では、薬師たちによる医学塾が各藩の医学校に発展していった(資料4)。島根県では安永四年(1775年)に、ポルトガル人による南蛮医術の導入が飯石郡吉田村の渡辺道斎によってなされ、文化三年(1806年)には、松江藩藩主 松平治郷による漢方医学 存濟館が開設された(資料4)。また、江戸時代後期[文化六年(1809年)～文久三年(1864年)]には、華岡青洲のもとに出雲国から大森泰輔・加善ら32人、石見国から23人、隠岐国から3人が入門し、医学修業と医療活動を行った(資料4,6)。華岡流外科門人の西山砂保は、長崎と江戸においてシーボルトおよびその高弟から蘭医学を

も修め、松江藩の医学・医術の進展に寄与した(資料4)。なお、華岡青洲自らは、ほとんど著作をしない人であったため、大森泰輔ら門人たちが青洲から直接見聞きしたことから書き留めた史料が青洲研究にとって重要な情報となっている。島根大学附属図書館医学分館には『大森文庫』という名称でこの古医学書を多数所蔵している(資料7)。

明治四年(1871年)、廃藩置県により藩立医学校及び病院は廃止された。島根県は明治12年(1879年)、松江公立病院を松江医院と改称・直轄とし、医学教育を開始した。明治18年(1885年)、松江医院を廃し島根県医学校とし、同年甲種医学校の特許を得た。しかし明治19年(1886年)、経済的な事情によって島根県医学校は廃止せざるを得なくなった(資料4)。そして、明治20年(1887年)、政府は勅令をもって、大阪、京都、愛知も三医学校を除き、その他の学校は一切廃止させられた。この時から島根県に再び医学校(島根医科大学)が設置されるまでに90年を要することになる。

明治以降、軍医総監であつて文豪の森鷗外・森林太郎(津和野町出身)、サルバルサン発見の秦佐八郎(美濃郡都茂町出身)、長崎の原子爆弾を被爆しながらも救援活動を行い、「長崎の鐘」や「この子を残して」などの書を著した永井隆(松江市)らが島根県から輩出された。しかし、県内では、「貧者より薬礼を受けずに地域の医療に尽くした数人の医師の名もみられる。かつて小作農中心の農村には支払う薬礼の現金を持つ農民は一年中ほとんどいなかった。在村の医師の生活は、多くは富裕者の診療か、村外への往診の謝礼に頼っていた」(資料8)とあるように、献身的な医師の活躍は散発的にみられたものの、地域医療の確立にはほど遠い状況であった。1961年、国民皆保険制度が成立しても、島根県の医療は県周辺の大学医学部からの派遣医に依存するほかなく、あつてもそれは都市部に限られ、かつ短期での交代勤務であつて、島根県に根付くことはなかった。さらに、交通網などの社会インフラの未整備と相まって中山間地域の医療など充実するはずもなかった。

### **島根医科大学の創設と建学の精神**

多くの中山間地域を抱える島根県ではこのような医師の確保が極めて困難な状況が続いていた。1970(昭 45)年頃に、医師不足に悩む地方、特に「無医大県」に医師養成機関をつくる、国の「一県一医大」構想が示された。同年、島根県厚生部に「島根大学医学部設置推進本部」が設置され、1973(昭和 48)年には、全国で9県が医大の誘致陳情合戦を行うなか、島根県住民の切実な願いと、島根県、市町村、島根県医師会協力体制、更に熱い誘致活動などが実を結び、国立大学単科の島根医科大学の創設が決定され、1975(昭和 50)年に国立島根医科大学が日本医学・医療発祥の地・出雲に漸く創設された(資料9)。

初代学長深瀬政市は、「従来の医科大学の殻に閉じこもらず、時代に先駆した進歩的な医学教育並びに研究活動を行いうる型の医科大学を創設する。」という理念を掲げて出発した。地方から世界的な医学研究を大学のmain projectsとして推進しよう

に「学なくして医道拓けず、術なくして医道行われず、心なくして医道なし」を建学の精神としていた(資料9)。

1978(昭和53)年10月、慰霊碑(医の扉)除幕式ならびに第1回解剖体慰霊祭が行われた(資料9)。解剖体慰霊碑である『医の扉』は、元島根県知事 田部長右衛門の揮毫によるもので、石見峡より運ばれた20トンの花崗岩から作られ、この基礎にはご献体された方々の名簿録が保管されている。1979(昭和54)年9月、施設竣工および附属病院開院を記念して島根医科大学出雲市協力会より小庭園の寄贈があった。小庭園には深瀬初代学長の揮毫による『医の炎』の記念碑がある。これは「地域の人々の一灯一灯が大きな炎となって、本学がこの地に設立されたことへの感謝」と「本学が燃える一大炎となって、世界に誇りうる大学となり人類の福祉に貢献しうるようになることを念じて」書かれたものである(資料9)。

島根医科大学の理念・目的は、島根医科大学学則第1章1条に示され、「島根医科大学は、教育基本法(昭和22年法律第25号)の精神および学校教育法(昭和22年法律第26号)第52条の趣旨に則り、医の倫理に徹し、かつ科学的探究心に富む人材を養成するとともに、医学水準及び地域医療の向上に寄与し、もって人類の福祉に貢献することを基本理念として教育及び研究を行う。」と明記された(資料10)。そしてこの島根医科大学の理念は深瀬初代学長によって設置された『医の扉』と『医の炎』に込められ、島根大学との統合を経て現在においても建学の精神を象徴するものとして、令和4年9月7日に教授会にて再定義されたのである([https://www.med.shimane-u.ac.jp/docs/2022090900013/file\\_contents/igaku\\_mission\\_20220907.pdf](https://www.med.shimane-u.ac.jp/docs/2022090900013/file_contents/igaku_mission_20220907.pdf))。

#### 島根大学との統合と島根大学医学部の理念

2003(平成15)年10月、島根大学と島根医科大学は統合され、新島根大学医学部が設置された。2004(平成16)年4月、国立大学法人法の施行により、「国立大学法人島根大学医学部」となった。同年発表された中期計画書には、『島根大学の使命は、人類共有の財産である知的文化を継承し、さらに創造的に発展させるとともに、大学が有する知的資産と知的創造力を活用した人材育成、学術研究活動を行い、これらを通じて地域社会・国際社会の発展と人類の福祉に貢献することである。新生大学は、このような大学の使命を果たすために、「教育重視の大学」、「知的活力ある大学」及び「開かれた大学」として、競争的環境の中で豊かな個性をもった大学を目指す。』とされている(資料11)。これに基づき、医学部については、「国際的視野に立った豊かな教養と高い倫理観を備え、かつ、科学的探求心に富む人材の養成と医学及び看護学の向上を目的として教育研究及び医療を行うとともに、その成果をもって地域社会の発展に寄与し、人類の福祉に貢献し得る高度専門職業人を養成する。」ことが謳われている(資料11)。

同時期に制定された医学部規則第1条の2において、「医学部は、国際的視野に立った豊かな教養と高い倫理観を備え、かつ、科学的探究心を持ち、医療、医学、看

護学及び地域社会の発展に寄与し、人類の福祉に貢献し得る人材の育成を目的とする。」と明記された(資料 12)。

### **島根大学医学部の使命**

島根県のこれまでの医療の歴史と地域の特殊性および島根医科大学開学の精神・理念や島根大学医学部規則等を踏まえて、国際認証自己点検評価報告書作成ワーキンググループが島根大学医学部の使命について草案を作成した。これが令和4年8月1日開催の令和4年度臨時医学教育プログラム委員会・教務学生委員会合同委員会にて審議され、9月7日開催の教授会に上程されて、使命が決定されたのである([https://www.med.shimane-u.ac.jp/docs/2022090900013/file\\_contents/igaku\\_mission\\_20220907.pdf](https://www.med.shimane-u.ac.jp/docs/2022090900013/file_contents/igaku_mission_20220907.pdf))。

#### **関 連 資 料**

- (資料1) 稗田阿禮、太安万侶。(訳) 武田祐吉、古事記03現代語訳、Kindle版
- (資料2) 菅野雅雄。現代語訳 日本書紀 抄訳、新人物文庫、2014.
- (資料3) 荻原千鶴。出雲国風土記 全訳注。講談社学術文庫、1996.
- (資料4) 米田正治。島根県医学史覚書、松江文庫、1978.
- (資料5) 小泉八雲。平川祐弘編。神々の国の首都、講談社学術文庫、1990.
- (資料6) 梶谷光弘。日本医史学雑誌 第59巻第3号、2013 : 425-440.
- (資料7) 島根大学附属図書館医学分館 大森文庫出版編集委員会編。華岡流医術の世界—華岡青洲とその門人たちの軌跡、2008年、ワン・ライン出版社.
- (資料8) 森 納。「児島保編、島根名医略伝」、日本医史学雑誌 第45巻第3号、1999 : 473-4.
- (資料9) 開学10周年記念誌
- (資料10) 島根医科大学学則第1章1条
- (資料 11) 国立大学法人島根大学医学部中期計画書 (2004 年)
- (資料 12) 島根大学医学部規則